

02

熱中症の症状とは？



守山さん

では早速だがかけるくん、まずは状況を確認してみようか。
ここで去年熱中症患者が出てしまったとか？

はい、溶接作業者が急にふらついて...
汗が止まらなくなってひどいめまいに襲われたとか...
幸い近くの人がすぐに救急車を呼んでくれて
大事には至らなかったそうです。
猛暑日の中、防護服も着ていたし、
汗をかきすぎたんでしょうか？



かけるくん、この表を一緒に見てみよう。
話を聞く限りやはり熱中症の症状、これを見るにⅠ度の症状が見て取れるね。
軽症とはいえすぐに病院で処置してもらえたのはよかった。
何があるかわからないからね。

	症状	重症度	治療	臨床症状からの分類
Ⅰ度 (応急処置と見守り)	めまい、立ちくらみ、生あくび 大量の発汗 筋肉痛、筋肉の硬直(こむら返り) 意識障害を認めない(JCS=0)		通常は現場で対応可能 →冷所での安静、 体表冷却、経口的に水分とNaの補給	熱けいれん 熱失神
Ⅱ度 (医療機関へ)	頭痛、嘔吐、 倦怠感、虚脱感、 集中力や判断力の低下 (JCS≤1)		医療機関での診察が必要→体温管理、 安静、十分な水分とNaの補給(経口摂取が困難なときには点滴にて)	熱疲労
Ⅲ度 (入院加療)	下記の3つのうちいずれかを含む (C)中枢神経症状(意識障害 JCS≥2、小脳症状、痙攣発作) (H/K)肝・腎機能障害(入院経過観察、入院加療が必要な程度の肝または腎障害) (D)血液凝固異常(急性期DIC診断基準(日本救急医学会)にてDICと診断)⇒Ⅲ度の中でも重症型		入院加療(場合により集中治療)が必要 →体温管理(体表冷却に加え体内冷却、血管内冷却などを追加) 呼吸、循環管理 DIC治療	熱射病

Ⅰ度の症状が徐々に改善している場合のみ、現場の応急処置と見守りでOK

Ⅱ度の症状が出現したり、Ⅰ度に改善が見られない場合、すぐ病院へ搬送する(周囲の人が判断)

Ⅲ度が否かは救急隊員や、病院到着後の診察・検査により診断される

こんな分類表があるんですね！
分かりやすい！

熱中症の症状や対処法を知るのとはとても重要です。
二人は次に原因についても学んでいくようです。



鎌倉 かけるくん

(表：日本救急医学会 『熱中症診療ガイドライン 2015』 p.7)

解説

熱中症は体の外の環境(高温・高湿等)により身体の体温調節機能が崩壊することで発症する病気で、発症すると、筋肉のけいれんや虚脱感、最悪の場合意識喪失や死亡することもあります。

では、具体的にどのような症状があり、どのように対処すればよいのでしょうか？
「熱中症心労ガイドライン 2015」は熱中症を重症度に応じてⅠ度、Ⅱ度、Ⅲ度に分類し、その症状と治療(対処)方法についてわかりやすく説明しています。

- Ⅰ度**：重症度は軽症。症状として、めまい・立ち眩み・大量の発汗や筋肉のけいれんが見られますが、意識障害にはなっていない状態。臨床症状からの分類では、熱けいれん・熱失神とされ、現場での応急処置(安静、水分・塩分の補給)と見守りで対処可能としている。
- Ⅱ度**：重症度は中程度。症状として、頭痛・嘔吐・倦怠感等が見られ、また判断力・集中力の低下が認められる。臨床症状では熱疲労と分類されており、医療機関での診察が必要。発症者に対しては、十分な水分と塩分の補給、そして体温管理と安静をしっかりとすることが求められます。発症者をⅠ度相当とみなした場合でも、応急処置に改善が見られない場合にはすぐ病院へ搬送することが大切です。
- Ⅲ度**：中枢神経異常、腎・肝機能障害、血液凝固異常のうちどれかの状態にある場合をいう。具体的には、意識がない、全身が痙攣している、体が熱い、呼びかけに対して応じ方がおかしい、などの症状がみられ、臨床症状からの分類では熱射病にあたる。この段階では、入院加療、場合によっては集中治療が必要になる。このような症状になっている人を見かけたら、まずは救急車を呼び、救急隊員、あるいは病院で最終的な診断を受けるようにしてください。

大切なことは、少しでも熱中症が疑われる症状を見かけたら、大丈夫だと勝手に判断せず、すぐに休ませ、医師による診察を受けさせるようにすることです。



POINT!!

熱中症は、暑い野外で発症するとのイメージが強いですが、実際には、夏への季節の変わり目、運動負荷の高い作業、防護服などの密閉性の高い服を着た作業、熱源付近の暑い雰囲気温度での作業等、**熱中症リスクの高い作業や場所はいたるところにあります。**

一人一人が熱中症リスクについてきちんと認識することが大きな事故を防ぐ第一歩です。